

# ☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成30年5月23日 VOL. 59

広幡地区を「高齢者のための支え合いの地域づくり推進モデル地区」に指定！！



指定書の交付を受ける竹下会長

高齢者のための支え合いの地域づくりを加速するため、その推進モデル地区として広幡地区を指定し、平成30年4月28日(土)広幡地区交流センターで開催された広幡地区社会福祉協議会(以下「地区社協」)の総会において小澤一成健康福祉部長が竹下昭二地区社協会長にモデル地区の指定書を交付しました。

支え合いの地域づくりの必要性と地区社協の役割などについて説明



熱心に聞き入る住民

市は、誰もがいつまでも安心して住み慣れた地域で暮らし続けられる地域包括ケアシステムを深化・推進するため、地域住民主体の高齢者のための支え合いの地域づくりを推進しており、その施策の一環としてモデル地区を指定してモデルケースをつくり、市全体に波及させることを狙いとしています。

今後、市と市社会福祉協議会が連携して、広幡地区における支え合いの地域づくりの支援強化を行うことを参加した地域住民に説明しました。

また、総会では、市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターが支え合いの地域づくりの必要性や地区社協の役割、期待される機能について説明するとともに、地区社協役員や安心すこやかセンター職員などにより寸劇を通してモデル地区の有効性をわかりやすく解説しました。参加者は熱心に聞き入り、理解を深めていました。



## ある日のできごと ～地域のかってすばらしい！～

一人暮らしのAさん(80歳)、趣味の会を連絡もなく続けて欠席。心配した仲間が自宅を訪ねると数日分の新聞がたまったまま。玄関に鍵がかかり応答もない。本人の所在が分からず、民生委員、町内会長に連絡し市や安心すこやかセンターにも連絡を入れた。緊急連絡先にも連絡がつかず警察に連絡。新聞店に確認すると「入院するので新聞を止めて欲しいと連絡があった」と。入院先の確認もでき安心な結果で済みました。Aさんの所在確認が短時間に行えたのは、Aさんが日ごろから近所や趣味仲間とのつながりがあったこと、高齢者の相談は地域の安心すこやかセンターに問い合わせることを地域の皆さんがよく理解していたからこそ。

後日、この町内会では、長期の不在は隣同士声を掛け合うこと、一人暮らしの方の緊急連絡先の確認をすることを検討したとのことでした。まさに、地域で安全に安心して暮らしたいという思いの強さと力を感ずるできごとでした。

